

＜書 評＞

祖父江逸郎 編集
西 谷 裕

筋ジストロフィー症の臨床

小池純子（横浜市大病院リハビリテーション科）

わが国における筋ジストロフィー症患者の療育は、国立療養所に収容するという一つの流れがあり、本症をめぐる基礎的・臨床的な研究に大きな成果をあげてきた。筋ジストロフィー症は、いまだ原因不明、根本的治療の確立していない疾患ではあるが、最近では、在宅生活を送る本症患者の care についても様々な検討がなされ、各分野、各施設のスタッフの努力により、全体としての患者の生命予後は延長している。

本書は、戦後、全国的規模で進められるようになった筋ジストロフィー症の系統的研究のうち、昭和53年

から58年にわたり行われた、厚生省神経疾患研究「筋ジストロフィー症の臨床病態および疫学的研究（班長：祖父江逸郎）」、「筋ジストロフィー症の疫学、臨床および治療に関する研究（班長：祖父江逸郎）」の成果を中心に歴史的側面をふまえて筋ジストロフィー症の臨床の最近の知見をまとめたものである。

I章では筋ジストロフィー症研究の流れと現況、II章 疫学、III章 遺伝、IV章 病理変化では、骨格筋、平滑筋、心筋、膵、脳病変について、V章 機能障害とその評価では咀嚼機能を含めた運動機能、心肺機能、

免疫、自律神経、内分泌等の内部機能および知的行動面の障害とその評価法について、VI章 機能障害の進展過程では神経、予後、死因について、VII章 治療では、これまでの薬物療法、リハビリテーションおよび内部障害に対する治療、新しい試みと広範な項目にわたって、Duchenne型筋ジストロフィー症を中心に、記述されている。

初めて筋ジストロフィー症に接するものにとって、本書は疾患のイメージをつかむのにやや難しい点もあるが、本症の臨床面での最近の進歩の集大成として、それぞれの細かいテーマごとにあげられた豊富な文献とともに、われわれリハビリテーション医学の分野から臨床にたずさわるものとしても、座右の書として大いに参考になるものである。

（A 5、316頁、1985、¥5,500、
医歯薬出版 刊）